

■ 奥州街道白河宿の歴史講座（その2）

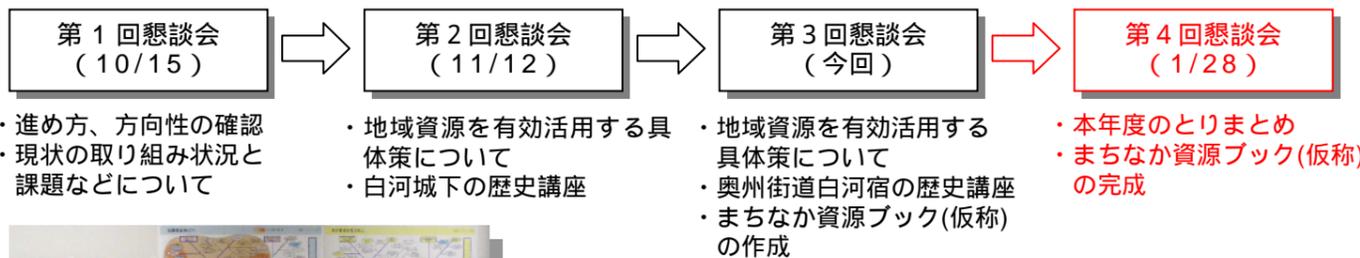


白河ハリストス正教会聖堂の初代神父は坂本龍馬のいとこであった。
乙姫桜の品種は、東北の冷涼な気候に適しているもので、関東ではなかなか根付かなかったと伝えられている。
友月山は中町の大越家の山荘であったが、寄贈され、白河市の公園となった。同家からは南湖の碑を書いた書家「大越有月」が出ている。
宗祇戻しゆかりの連歌について、昨年から連歌の会が復活し、開催されている。
城下町特有の町名・小路の由来は、文献に書かれているほかにも、いろいろな地元の違いがある。たとえば、「会津町」は白河藩主であった丹羽長重公が石高の加増に伴い、会津藩から浪人を連れてきて住ませたことに由来するなど。



遠藤喜久雄さん

■ 本年度の懇談会の活動について



次は最終回です。
地域資源を有効活用したまちづくりへ向けて、みなさんのアイデアをまとめます。また、地域資源を有効活用する具体策についての話し合い、まちなか資源ブック(仮称)を完成させます。
みなさんのいろいろな考えやアイデアを持ち寄ってください。

次回懇談会のご案内

第4回懇談会
・本年度のとりまとめ
・まちなか資源ブック(仮称)の完成
日時：1月28日(水) 13:30~16:30
集合場所：マイタウン白河 2F レンタルルーム 1

お問い合わせ先(主催者)

福島県県南建設事務所 企画調査課
住所 / 〒961-0971 白河市昭和町 269 番地
TEL / 0248-23-1617
FAX / 0248-23-1642

まちづくり懇談会

奥州街道白河宿 にぎわいの再現

このニュースレターは、平成20年度の「第3回まちづくり懇談会」で話し合ったことをまとめたものです。本年度の懇談会では、歴史・文化的資源及び観光・物産等の地域資源を有効活用するための具体策について話し合いをしています。また、まちなかの歴史、観光などの地域資源に詳しい「白河通(しらかわつう)」を養成するとともに、まちなかをガイドする際に参考となる『まちなか資源ブック(仮称)』を作成しています。今回は、全員で19名の方々の参加がありました。

はじめに

今回の懇談会では、前回に引き続き、地域資源を有効活用したまちづくりのための具体的なアイデアについて話し合いました。また、まちなか資源ブック(仮称)掲載方法や構成などを決め、さらに白河通になるための第一歩として、歴史講座(その2)を開き、まちなかの地域資源などについて勉強しました。

第3回まちづくり懇談会 プログラム

とき 平成20年12月17日(水) 13:30~16:30
ところ マイタウン白河3F レンタルルーム 5



挨拶

第2回まちづくり懇談会の振り返り

これまでに参加者の方々から出していただいた多くのアイデアをもとに、「城下町の風情をいかす」「自信をもってなす」の2つの目標に向け、意見集約シート(ツリー図)を提示しました。

奥州街道白河宿の歴史講座(その2)

白河通になるための第一歩として、奥州街道白河宿の歴史講座を開催しました。今回は、まちなか資源ブック(仮称)に掲載する地域資源や町名の由来などを中心に勉強しました。

- ・テーマ：まちなかの地域資源
- ・講師：本町町内会(本町復起会) / 遠藤喜久雄

まちなか資源ブック(仮称)の具体化に向けて

まちなか資源ブック(仮称)に掲載する地域資源と掲載方法や構成などを決めました。また、掲載する地域資源については「わたしのおすすめ」欄を設け、担当者(サポーター)を決めて、その情報の作成を依頼しました。

まとめ

次回の懇談会の予定について、確認しました。